

令和2年度 第1回 三原市地域公共交通活性化協議会 会議概要

日 時：令和2年7月15日（水） 10：00～11：30

場 所：三原市役所 3階 会議室

出席者：18名（5名）

内 容：

1. 開催あいさつ

2. 自己紹介

3. 報告事項

(1)平成31年度地域コミュニティ交通の利用実績について

[事務局から資料1により報告]

[質疑応答]

各委員：本郷ふれあいタクシーは利用者数が年々増加しているという報告であったが、その要因があれば教えて欲しい。逆に、運行されているタクシー事業者さんのタクシー事業への影響はあるのか。また、本郷駅の利用者が一番多いということであるが、JRに乗り換える方が多いのか、それとも駅周辺で用事をする方が多いのか。

久井のふれあいバスは区域運行型の検討をしているということであったが、神石高原町等がされているように、例えば利用者は通常の営業タクシーを一定額で利用して、それを越えたメーター部分を行政が補助する、いわゆるタクシー助成というようなやり方も1つの手法であり、合わせて検討していただければと思う。また、かねてより2便目の利用者が少ないということであった。定時定路線の良さもあり、2便目の運行を取りやめれば費用が若干少なくなり、収支率が改善する可能性もあるので、そういった選択肢もあるかと思う。

大和ふれあいタクシーは利用者が減少傾向にあるが、行き先がこういった所かという分析があれば良いと思う。

八幡さくら号は垣内のバス停で路線バスへの乗り換えの利用が多いかと思う。路線との接続を改善するとか、予約でなくてもバス停の時刻に合わせて到着・出発するようなものを設定するとか、何か改善の余地があるかもしれない。

事務局：1点目の本郷ふれあいタクシーの利用者が増加している要因について。平成28年度に1日平均24.5人だったものが年々増加している。要因としては、運営している町内会の利用促進がまず1つ。町内会の集まりで利用を促したり、利用案内リーフレットを配布している。また、敬老会で配布する資料にふれあいタクシーの情報を掲載してPRをされている。そういったPR活動を通じて利用してみようと思っていただいたり、実際に利用した方が知り合いに紹介するなどして利用者が増えていったのではないかと考えている。利用することでふれあいタクシーの良さ、便利さが分かり、何度も利用していただけるような状況になっているのではないかと思う。また、運用の面について。当初は主に町内の周辺部から真ん中のまち中エリアに来られる方を想定していたが、現在ではまち中エリアにお住まいでまちなかエリア内の利用をされる方が増えている。往路便は自宅から目的地へ、復路便は目的地から自宅へ帰るものと

して設定していたが、まち中エリアにお住まいの方は移動距離が短いので往路・復路便どちらでも目的地と自宅の行き来が出来る。そういった運用面での改善も増加の要因となっているかと思う。

また、昨年の網形成計画を作る際のアンケートの中で、オペレーターや運転手が親切に対応してくれる、といった意見も多かった。そういったことでまた利用したいと思ってもらえる環境があるかと思う。

タクシーへの影響について。ふれあいタクシーの利用者が増加しているのは良いことであるが、タクシー会社としてはタクシーを利用されなくなるため、ふれあいタクシーばかりがあまり増えすぎても困る、という意見がある。

JR やバスの乗り継ぎについて。本郷駅から JR やバスに乗り継げるが、どちらが多いかというのは把握していない。もし 70 歳以上の方がバスで三原まででかけようとする 100 円で行けるので、時間はかかるが、安く済ませられる。そういった使い方をしている方も多いのではないかと思う。

久井の見直しについて。本郷・八幡・大和等、他の乗合タクシーもあるということで、まずは乗合タクシーとして進めていきたいと考えている。もちろんタクシー助成という方策もあるが、そうすると市内全域で考えなくてはいけなくなるため、まずは区域運行型の乗合タクシーで検討していきたい。

また、大和の行き先については現在は事務局としては把握していない。今後は行き先も見て把握しながらサービス改善につながるものを検討していきたい。また、八幡についても、先程予約をしなくても乗合タクシーに乗り換えて帰れる方法もあるのではないか、というアドバイスをいただいたので、今後考えながらより良いサービスにできるよう検討していきたい。

各委員：利用料金について。300 円、200 円等あり、また敬老優待で 100 円、200 円というものもある。地域によって値段が違うと思うが、どのようにして決められたのか教えて欲しい。

また、1 乗車で 300 円、往復で 600 円になるので、利用者が減っているところはもう少し下げても良いのではないか。もう 100 円くらい下げて利用していただければまた増えるのではないかと思う。

事務局：利用料金の現時点での設定について。1 乗車 200 円や 300 円があるが、これは運行形態の違いで料金を変えている。路線バスのように決まった時間に決まったルートを走る「路線定期運行型」については 1 乗車 200 円という設定である。一方で「区域運行型」といって、自宅まで迎えに来てくれて、区域内の目的地まで行けるものは、利用者にとって便利だということで差をつけて 1 乗車 300 円の設定にしている。また敬老優待を利用すれば利用料金から 100 円引きということで運用をしている。利用が少ないところは料金を下げればよい、という意見については、1 つの考え方であると思う。料金設定については今後検討していきたい。

各委員：各コミュニティ交通については三原市からの 100%補助金で運営していると理解している。大和自治振興連合会としては総事業費から運賃収入を引いたものが三原市の補助金と理解してきたが、収支状況を見ると各コミュニティ交通の事業収入に補助金を足すと、事業費を越える。各コミュニティ交通の収支はプラスになるのではないかと思うが、どうなのか。

また、先程質問があった大和町のふれあいタクシーの行き先であるが、徳良地区には

病院やスーパーがあり、病院への利用が多く、帰りに買い物をして帰られるという利用が中心になっている。

事務局：収支状況について。収支状況の箇所に記載の「所定運賃収入」は1人200円、300円で算定しており、それを基に収支率を出している。ただし、実際は敬老優待利用者の方であれば本来は300円であるが200円しかいただかない。障害者の方であれば300円のところ、無料である。そのため、実際の運賃収入というのはもっと少ない。事業費から、この実際の収入を除いた赤字額を市が補助している。

4. 協議事項

(1) 令和3年度地域内フィーダー系統確保維持計画（案）について

[事務局から資料2により説明]

議長：「令和3年度地域内フィーダー系統確保維持計画（案）」については、事務局の説明の通りに進めていく。細かい修正等があれば事務局に一任するという事で取りまとめさせていただきます。

(2) 平成31年度三原市地域公共交通活性化協議会事業概要及び会計収支決算書（案）について

[事務局から資料3により説明]

議長：質問・意見が無いため、「平成31年度三原市地域公共交通活性化協議会事業概要及び会計収支決算書（案）」について承認とさせていただきます。

(3) 和木・本郷線の路線廃止について

[事務局から資料4により説明]

(4) 徳良線の経路変更について

[事務局から資料5により説明]

議長：質問・意見が無いため、「和木・本郷線の路線廃止」、「徳良線の経路変更」について承認とさせていただきます。

5. その他

西条エアポートリムジンの運休について

[事務局から資料6により説明]

[質疑応答]

各委員：エアポートリムジンについて。資料の中では、7月は運行していることになっているが、未だに運休している。空港については過去の利用に対し、現状の利用は約20%位に留まっているのが現状である。これを見ながら再開について東広島市、広島県、広島空港と調整することを考えているので、よろしくお願ひしたい。

各委員：中国バスが運行する三原と空港を結ぶ連絡バスは運行されているのか。また、新型コロナウイルスの影響による市内の路線バスやその他公共交通の減便等はあるのか。三原駅前にキオラスクエアがオープンするが、中心市街地が活性化していくことは喜ばしい。公共交通に関しても、中心市街地の賑わいが復活すると、利用者の増加や利用促進の1つのチャンスになるかと思う。三原市、事業者で何か連携策等ができるものか。それから、広報紙を拝見すると、三原市は「ウォーキングのまち」という

ことで、健康増進を目的としたウォーキングイベントの実施団体に対する補助を募集されているが、ウォーキングイベントを実施するにあたり公共交通のセクションと連携したものを実施できれば相乗効果があるのではないか。

公共交通は、そのものが目的というよりは他の目的に対しての移動手段という面がある。需要創出のためのチャンスとして捕らえていただければと思う。

議長：ウォーキングイベントは県立広島大学でも協力している。今後とも更に積極的に連携を図っていきたい。

事務局：リムジンバスについては、三原駅と広島空港を連絡するものは減便にて運行している状況である。やはり飛行機の便数が回復しなければ難しいかと思う。

また、言われた通り三原駅の前に新しい図書館、ホテル、スーパーができる。三原市においても市の中心部に人が集まれるようなランドデザインの計画もある。また港方面にも賑わいづくりの計画があると聞いている。そういった計画とも合わせながら人が集まれるようなものを関係部署とも一緒に検討してきたい。

議長：三原市には様々なポテンシャルがある。それを大いに活用し、積極的に地域の活性化を図っていくのは良いことである。

6. 閉会